

# 「中里高校での現在と未来」

中里高校2年 佐々木 向日葵

小中学生のみなさん、皆さんは中里高校にどのようなイメージをもっていますか？ 私は、あまり積極的な理由で中里高校を選びませんでした。「小泊からの通学の便がいい」「苦手教科の克服が中心の授業」「生徒1人ひとりに先生方が勉強を丁寧に教えてくれる」などが当時の理由だったと思います。そんな私ですが、今は「大学に進学し看護師になる」という目標に向けて日々頑張るといふ高校生活を送っています。中学校時代や高校に入学した頃は無理だと思っていた目標です。高校では担任の先生がみんなに達成できそうな目標を持たせてくれます。私は「大学のオープンキャンパスに2つ行く」という目標に沿って今年は弘前大学をはじめ、複数の大学を見てきました。私のような勉強の悩みを克服して頑張っている大学生の方と話す機会があり、やる気が心の内側から出てくるのが、自分でも分かりました。



高校では先生方や周囲の友人以外にも「頑張っている人」に出会える機会がたくさんあります。「夢をめざす職業講話」では、県内で頑張っている30人近くの社会人の話を聞きました。岩木川を題材とした青森菱友会のねぶたでねぶた大賞・最優秀制作者賞を受賞された竹浪比呂央さん。一緒にねぶたを作ったり、ねぶた師としての心構えを直接聞いたりと、第一線で活躍している方から刺激を大いに受けました。「なかどまりまつり」で運行した「中里高校ねぶた」や「メバルねぶた」は皆さんご存じですよね？



中里高校に入学して「今、自分ができることを、精一杯やる」という当たり前かもしれないませんが、大事な生き方を私は実践しています。「今を生きる」という姿勢です。「過去」も「未来」もあまり考えすぎないように生活をしている私ですが、「青森ねぶた祭」に中里高校で参加したときは、不意に涙が出そうになりました。自分たちで作った「メバルねぶた」を持ち、「中里高校の職（のぼり）」とともに、大勢の観客の中を練り歩いている時、私たちは確かにあの場にいました。



誇らしい気持ちや感動的な気持ちと同時に、「10年後もこうして学校はあるのかな？」とふと思ったとき、なにもいえない悲しい気持ちになりました。小中学生のみなさん、皆さんは中里高校にどのようなイメージをもっていきますか？ 中里高校では私だけではなく、「今、自分ができることを、精一杯やる」人がたくさんいます。一度でいいので、是非学校に来て私たちの活動を見て欲しいと思います。10月20日(日)には文化祭を開催しますので、ぜひお越しになって、「中里高校の未来」を一緒に考えてくれたら嬉しいです。

